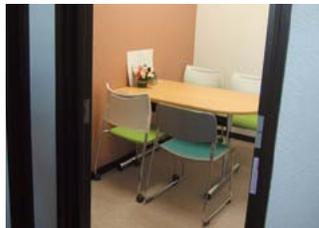


今年度からは、学校推薦を希望する生徒全員に、2年生の夏休みにオープンキャンパスに参加するよう指導。ワークシートを提出させ、「進学事典」付属のワークシートで学校比較を行うとともに三者面談の資料とする。



生徒一人ひとりにきめ細かな対応をしている同校では、明るい雰囲気個室を用意するなど、面談ルームを充実させている。



進路指導主任
原田康司先生

「考え抜いて進路を決めた卒業生は、進路先で頑張っているという話を聞きます。ミスマッチではない、本人が後悔しない進路選択ができるよう指導したい」

同校では1学年約1500人のうち、2〜3割の生徒が大学に進学するが、入学時点で進学が就職を決めていない生徒がほとんど。個別指導をていねいに行いながら、生徒の希望を探っていく。「けれども、2年生でもなかなか決定できず、進学や就職のための準備が出遅れてしまうことがあります」と、進路指導主任の原田康司先生は言う。例年、2年生の終わりに「やはり進学したい」と生徒が言い始め、対応に追われることも少なくなかった。

生徒が進路実現に向けて主体的に動くためには、もっと早い時期での意思決定が必要。特に進学準備は少しでも早く始めさせたいと考えた同校では、2年生の夏休みのオープンキャンパスへの参加を積極的に促すことにした。多くが推薦、AOで進学する同校では、2年生の夏休みに進学の意志がしっかりと固まれば、余裕をもって準備ができると考えたからだ。

「どこでもいから進学、就職」と言われれば不可能ではありません。けれども、将来的な生徒の幸せを考えれば、自主的に進路を決め、目標に向かって努力する経験が必要。たとえ第1希望が難しくても、第2希望、第3希望と妥協せず探させたい」と原田先生。「そのときに『進学事典』のような資料は助けになってくれます」。

※ダウンロードサイト：リクルート進学総研「キャリアガイダンス」発行メディアのご紹介「クラス担任のためのキャリアガイダンスvol.25」

『進学事典 研究号』を使い 興味関心に基づいた志望校選びを促す

千葉学芸高校(千葉私立)

千葉学芸高校は創立127年を迎えた私立高校。進学、公務員、情報、福祉、芸能の普通科5コースからなり、卒業後の進路は多様だ。プロを輩出しているゴルフ部をはじめ、自転車競技部、弓道部、吹奏楽部など全国的に活躍している部活動も多い。

進路志望の決定のために 家庭で話し合う機会を設ける

夏のオープンキャンパス参加と 学校比較を記録に残す

と、保護者と意見が食い違うことがあります。話を聞いていると、2年生の年末年始に家族や親戚がそろって進路について話し合う機会が多いことに気づきました。そこで、それより前の時期に生徒が意志を固めることが重要と考えたのです」と原田先生は言う。

を参考にします。そして、それをふまえて冬休みに家庭内で話し合ってもらおうという流れだ。

同校ではこれまで、全学年で4月に家庭訪問を実施したり、こまめに面談を行うなどして、生徒の意志、保護者の意志の確認をていねいに行ってきた。今年度からさらに、『進学事典』での進路調べを面談に生かしたり、進路指導部と担任、そして保護者との連携を強化するなど、進路志望を決めるプロセスを手厚くすることを心がけた。それにより、生徒が自主的に進路指導室を訪れたり、今まで同校の卒業生が進学していない大学名が生徒の口から出てくるなど、意識の変化が感じられるという。

スクールデータ

生徒数414人
(男子262人・女子152人)
普通科12学級
進路状況(2013年度)／
大学進学21.8%
専各進学38.5%
就職36.5%・その他3.2%

千葉県東金市田間1999
電話／0475-52-1161
http://www.cgh.ed.jp/